

27年度 氷見市教育総合センターだより 第6報

第2回 教育総合センター運営委員会

1月20日(水)

今年度も皆様方のご理解とご協力のもと、教育総合センター事業を実施してまいりました。ご支援を賜りありがとうございました。第2回運営委員会でいただきました貴重なご意見の一部を紹介します。

<平成27年度 事業報告>

研修会教育相談等コーディネーター
スキルアップ研修会4回

学力向上研修会 4回

ICT 活用力向上研修会 4回

幼・保・小連携教育研修会、生徒指導研修会、ふるさと学習研修会、仲間に学ぶ研修会、学校経営研修会、外国語活動研修会、教育セミナー、教育実践記録に関する研修会、その他自主研修会（若手教員研修会）等

推進事業

心のケア推進事業、国際理解教育推進事業、学校評価推進事業、教育サービス事業、その他（氷見の学力向上フロンティア事業、小中連携教育推進事業、「ひみっ子夢と希望」きらめき推進事業 等

調査研究事業**チーム支援推進委員会**

- ・チーム支援体制構築の周知と充実
- ・実践事例の共有
- ・リーフレットの作成等

学力向上推進委員会

- ・授業改善・学習習慣づくりの推進
- ・全国学力・学習状況調査の分析
- ・学力向上自主研修会の企画・運営
- ・「授業づくりノート」の作成等

「ふるさと学習資料」作成委員会

- ・「ふるさと学習資料」全面改訂
- ・デジタルコンテンツの収集・整理
- ・授業におけるICT活用の推進
- ・リーフレットの作成等

<平成28年度 事業について（協議内容の一部）>

○ 教員の資質向上や研修について

- ・若手教員の育成が急務である。学級づくり、保護者対応等、若手教員の悩みを受け入れる場や、切磋琢磨する場を大切にしたい。
- ・若手教員研修会に参加し、研修後に同年代の人たちと会話して悩みを共有することができた。学校とは違う学びがあった。継続してほしい。
- ・若手教員研修にミドルリーダーを核として位置付けることで、悩みの共有だけでなく、双方にとってよい研修になる。また、本人の希望（課題別）を重視することにより、主体的な研修となる。
- ・講師を招聘する教育セミナー等は大変有意義であるが、学校でその内容を生かすきれないでいる。校内研修等を活用して、自分自身のものとして定着させていくことが大切である。
- ・幼保小連携教育研修を子育て支援課と連携して進めることはよい。
- ・学校では校務分掌を考慮して研修の参加者を決めることが多い。新しい内容に目を開かせる意味でも、分掌にこだわらず、受講者の希望を重視していきたい。（→案内文書の記述を工夫する。）
- ・年齢構成をバランスよくグループに分けると、話し合いが充実し、研修が深まるのではないかと。
- ・「ノー部活動デー」を活用して夏季休業中に集中する研修会の分散化を図るとよい。



○ S S Wや指導員等の派遣について

- ・S S Wや養護教諭不在時における指導員の方々に助けられた。今後も、学校・学級の悩みや要望に応じて派遣してほしい。時間が限られているので、有効に活用したい。

○ 情報モラルやネットトラブルについて

- ・児童生徒の実態から、情報モラルに関する研修の必要性を感じている。学校でも実施しているので時期や講師が重ならないようにする。市P連と連携するなどして保護者も学ぶ場があるとよい。

○ 外国語活動について

- ・小学校でも「CAN-DOリスト」が必要ではないか。中学校で作成したものを参考にして小学校バージョンを作成する研修会があるとよい。
- ・ALTの活用について工夫の余地がある。学校でも積極的に働きかけ、有効に活用していきたい。

○ 「ふるさと学習資料」について

- ・「ふるさと学習資料」のデジタルコンテンツを、中学校でも活用できるようにしてほしい。見学に行けない場合もあるので、それらを活用することにより児童生徒の学習が深まる。（→内容的には、小学校3年生から中学校1年生の総合等で活用できるようにしたいと考えている。）

小中連携教育

平成 28 年度中学校入学説明会

平成 28 年度入学説明会が平成 27 年 12 月上旬に各中学校で開催されました。校区の実態に応じた資料が準備され、児童も保護者も安心できる活動や説明が行われました。その内容について紹介します。



<p style="text-align: center;">＜南部中学校区＞</p>  <p style="text-align: center;">(通学について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方針 ・学校生活 ・安全な通学 ・学校集金、入学式 ・部活動見学 ・授業体験 (英語) ・親学びプログラム 	<p style="text-align: center;">＜北部中学校区＞</p>  <p style="text-align: center;">(英語の授業体験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方針 ・学校生活 ・安全な通学 ・学校集金、入学式 ・授業体験 (理科・英語・美術) ・親学びプログラム
<p style="text-align: center;">＜西部中学校区＞</p>  <p style="text-align: center;">(教育方針について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方針 ・学校生活 ・安全な通学 ・学校集金、入学式 ・授業見学 (数学・英語) ・授業体験 (音楽) ・親学びプログラム 	<p style="text-align: center;">＜十三中学校区＞</p>  <p style="text-align: center;">(生徒心得について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方針 ・学校生活 ・安全な通学 ・学校集金、入学式 ・授業見学 (理科・英語・保体) ・親学びプログラム
<p style="text-align: center;">＜灘浦中学校区＞</p>  <p style="text-align: center;">(音楽の授業体験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方針 ・学校生活 ・安全な通学 ・学校集金、入学式 ・授業体験 (英語・音楽) ・親学びプログラム 	<p style="text-align: center;">＜西條中学校区＞</p>  <p style="text-align: center;">(学校生活について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方針 ・学校生活 ・安全な通学 ・学校集金、入学式 ・授業体験 (数学・理科・英語 音楽・美術) ・親学びプログラム

どの中学校区でも保護者対象に「親学びプログラム」が実施されました。氷見市小・中学校 PTA 連合会 (市 P 連) のファシリテーターを中心に「中学生になったらスマホ買って！」や「子どもの気持ち！」をテーマに話し合いが行われました。その時に配布された市 P 連の資料や生徒会が作成した資料を紹介します。



ネットの危険から子供を守るために

- 親はネットの危険について学び、しっかりと子供に教えます。
 - ・自分と人の個人情報は書かない(書かせない)。
 - ・人の悪口は書かない(書かせない)。
 - ・知らない相手と通信しない(させない)。
 - ・フィルタリングは解除しない。
- 家庭内で正しい利用法やルールを決めて守ります。
 - ・ネットは夜9時まで、親は夜 10時まで。
 - ・利用は家族がいる場所で。
- 親は、ネットトラブルとネット依存の責任者であるという自覚をもちます。
 - ・書き込んだ内容は親の責任。
 - ・ネットトラブルの解決は親の責任。

氷見市小・中学校 PTA 連合会

※ 見えないところに掲示して、家族みんなで確認しよう。

北中スマホルール

- 一、一日のスマホ使用時間は一時間。
- 二、学習時間とスマホ使用時間の割合は
- 三、自分の部屋でスマホを使わない。
- 四、夜十時以降はスマホを使わない。
- 五、一日の SNS 平均時間は時 0.5 間。
- 六、SNS に人の悪口を書かない。
- 七、SNS に個人情報を書かない。



4 : 1

入学説明会では、生徒たちが大活躍でした。学校紹介や年間行事、学校生活、生徒心得について、映像や実物を用意して、児童に分かりやすく説明していました。テストについて説明する時は、中間や期末などの一年間の見通しを示し、「中学校の授業は進度が速く、予習、復習が大変でしょうが頑張ってください」と伝える場面もありました。とても温かい雰囲気の中で入学説明会が進行しました。

いじめに関する講演会 開催

演 題 「いじめの現象に見られる子どもたちの世界」

講 師 富山大学人間発達科学部

准教授 久保田 真功 先生

1月27日(水)



久保田先生を迎えて、「いじめに関する講演会」を開催しました。久保田先生は、いじめについての研究内容を豊富なデータ(エビデンス)を示しながら講義されました。

いじめの発生要因に関しては、教室という環境の中で、加害者に何らかの特徴が見受けられることもあるが、それ以外に集団内にいじめ行為を許容する空間ができたときに発生しやすいと話されました。加害者の示す心理的特徴には、学校や家庭に適応できないことによってもたらされる情緒不安がある。さらに、加害者に罪悪感や善悪の判断力が欠如していると、いじめがエスカレートしていくと説明されました。

周囲の子どもたちはなぜ、いじめを黙ってみているのか？

—中学生を対象とした質問紙調査から分析—

(当日提示資料より)

(1) いじめへの恐怖	「助ける勇気がなかったから」 「自分にいじめられていた子を助ける力がなかったから」 「助けると自分もいじめられるから」など。	(4) 関与の否定	「自分には関係ないから」 「何もしなくてもそのうちおさまると思ったから」 「自分がいじめられていたわけではないから」など。
(2) 被害者への帰属	「いじめられていた子に悪いところがあったから」 「いじめられていた子が、いじめられるようなことをしていたから」 「いじめられていた子が気に入らなかったから」	(5) 事態の楽観視	「そんなにひどくいじめられていたわけではないから」 「いじめられていた子がそれほどいやがっているように思わなかったから」
(3) 快楽的動機	「いじめられているのを見るのが楽しかったから」 「いじめられているのを見るのがおもしろかったから」	「被害者への帰属」には、「反教師傾向」(教師に対して反感を抱いていること)が有意な正の影響。また、「快楽的動機」には、「反教師傾向」や「非行傾向」(授業をさぼったり、カンニングや校則違反の制服を着たりするなどの逸脱行動をしていること)が有意な正の影響。	

参加者の感想

いじめは、大変複雑な要因が絡み合っていることに気付いた。学級集団そのものの質が様々なトラブルを引き起こすきっかけになっている。その質をよいものに変えていくことに力を注ぎたい。

(小 教諭)

エビデンスを基にすると、いじめはいろいろな見方があることが分かった。学級集団特性といじめについては、特に納得できる結果だと感じた。Q-U調査結果との関係については、「なれあい型」が、いじめの発生が一番多いということであるが、人間関係重視のようで、子供にとっては安心できない場を作り出しているのだと改めて感じた。いじめはどの学級にも起こり得るけれども、防ぐことはできると思われるので、そのために日々子供との関わりを大切にしていきたいと思った。

(小 教諭)

いじめは、しっかりとしたエビデンスを踏まえていれば、効率よく確実に改善できることが分かった。学級集団という特質についてじっくりと考えることができたので、学級運営の大切さを改めて実感することができた。

(小 教諭)

学級集団には、性別、能力、性格等で差異がある人が集まっている。もともといじめが発生しやすい特性があることが分かった。しかし、何か手を打たなければならない。教師は、生徒となれ合っているばかりではいけない。ルールを確立し、指導していかななければならない。否定的なクラスイメージをもつ生徒の多いクラスでは、遊び感覚になったり、制裁を加えようとしたりする生徒が生まれ、いじめにつながるケースが多い。生徒としっかりと関わり、信頼関係を構築するとともに、生徒の自己肯定感を高めていくべきだと思った。

(中 教諭)



新 着 図 書 の 紹 介



氷見市教育総合センター

今年度、下記の参考図書を購入しました。ぜひご活用ください。

<教育相談>

励ましカウンセリング	新垣千鶴子・中野晃男 編著	学事出版
それでも親はモンスターじゃない！	小野田正利 著	学事出版
学校危機とコンサルテーション	細田眞司・大西俊江・河野美江 編著	新興医学出版社
マンガ ストップいじめノーモア自殺！	NPO法人「再チャレンジ東京」 編著	学事出版

<教育論>

教育という病	内田 良 著	光文社新書
素質と思考の「脳科学」で子どもは伸びる	林 成之 著	教育開発研究所
これからの学校教育を語ろうじゃないか	諸富祥彦 編著	図書文化社
本を読む人だけが手にするもの	藤原和博 著	日本実業出版社

<学級経営・授業づくり>

気になる子を伸ばす指導 成功する教師の考え方とワザ 小学校編	赤坂真二 編著	明治図書
気になる子を伸ばす指導 成功する教師の考え方とワザ 中学校編	赤坂真二 編著	明治図書
通常学級のユニバーサルデザイン授業編	阿部利彦 編著	東洋館出版社
教師のための実践マナーブック	教師のマナー研究会 編	教育開発研究所
コンピテンシー・ベースの授業づくり	奈須正裕・江間史明 編著	図書文化社
赤坂版「クラス会議」バージョンアップガイド (月刊学校教育相談1月増刊号)	赤坂真二 著	ほんの森出版

<道徳・郷土教育>

「カーくん」と森のなかまたち」	吉澤 誠 著	ワイズ・アウル社
「問題解決学習」と心理学的「体験学習」による新しい道徳授業	諸富祥彦 著	図書文化社
九転十起 事業の鬼・浅野総一郎	出町 譲 著	幻冬舎

<読書指導>

これならできる！ 楽しい読書活動	小中学校読書活動研究会 著	学事出版
読書活動でアクティブに読む力を育てる！ 小学校国語科言語活動アイデア＆ワーク	井上一郎 著 古川元視 編	明治図書

※ 各種教育関係図書や月刊教育雑誌、教科書等も取り揃えています。
 なお、事前に電話をいただければ、本人以外の方等の代理貸し出しをするとともに貸し出し時間等の相談にもなります。気軽に電話でお問い合わせください。

氷見市教育総合センター
 TEL 0766-74-8221
 FAX 0766-72-8122